

桑名文化協

平成26年3月15日
第 35 号
桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361
http://bunkyo-kuwana.jp

第十回 新春六華苑祭

新春六華苑祭

芸能工部門 宮永 洋子
(宮永洋子箏曲・三絃教室)

初春を寿ぐ「新春六華苑祭」が一月十八・十九日の二日間、六華苑にて開催されました。両日とも晴れて何よりでした。

多度の山々、鈴鹿峰を仰ぎ、七里の渡しを近くに見ながら六華苑



の門をくぐりましたら、オカリナの澄んだ音色が聞こえてまいりました。洋館で開催されたオカリナの演奏を始めとして、和室では邦楽関係の鳴り物、民謡、能楽等が開催されました。又、芝生広場での雅楽やキッズダン

スは、芝生や木々の緑に映えて素晴らしい光景でした。特に芝生広場での催しはお天気に左右されますので、その点本当に良かったと思います(六華苑祭はいつもお天気が気になります)。



毎年参加させていただいて感じるのですが、六華苑という存在が桑名の文化に大いに寄与しているという事です。特に邦楽に関わっている者として、あの和室の空間で演奏できますことは、皆様に生の音を身近で聞いていただける貴重な機会です。市民会館や他のホールの舞台とは違った良さを感じ取って頂けると幸いです。六華苑が開苑された年に、使用許可を申し込みました所、「楽器使用の会」は想定してなかったとの事で許可がしばらく保留された

のが、嘘のような昨今の様子です。(貴重な文化財の建物ですから)しかし、すっかり市民の憩いの場となりました。限られた空間・時間の中で、毎年開催して頂きまして感謝申し上げます。

文化協会の役員の皆様、お世話いただく六華苑の皆様、出演していただく皆様、おいでいただくお客様、全ての力が集まって楽しい時間が持てると思います。どうぞこれからも、開催を継続して頂きますようお願い申し上げますと共に、私たちも、次世代に伝える努力をしたいと思えます。願わくは、舞踊の方々に一人舞でも参加していただければ、お客様に一層楽しんでいただけたらと思います。最後に皆様本当にありがとうございました。

新春六華苑祭

演奏会

音楽部門 藤井 弘
(ハーモニカモニカーズ)

当会は、ハーモニカを通して、生涯の健康と楽しさを求める会です。ハーモニカは現在第三のブームと言われており、会員も毎年増加しております。

ハーモニカを始めて三ヶ月の人も合奏・独奏を致しました。衣裳も自分達で用意。鮮やかなユニ



フォームでした。口は渴き、足もブルブル震えながら懸命に吹きました。今までの人生の中でステージに立つことが初めてであり、それも会員各々が主役を務めました。後刻、観客より「高齢の方がユニフォームもきれいに、演奏も立派にされた姿勢に感動致しました。」とコメントを頂き本当に感動致しました。

今回の六華苑祭に出演できたことを誇りに思います。当日は快晴、寒気は厳しくこれからの演奏に向かう心を奮いたたせました。

六華苑に着くとすでにスタッフの人たちが元気な声と行動で準備しており、私たちの演奏もこの方々の協力で可能なのだと自覚させられ、私は心の中で感謝の言葉を言いました。今回の演奏会を通じて、演奏会の準備の為にたくさんの方々の協力を頂き、またたくさんの方々の温かいご支援を頂きました。



桑名市民芸術文化祭

桑名市民芸術文化祭を終えて

芸能Ⅲ部門 金田枝里香
(金田枝里香バレエ教室)

今回で四回目の参加となる、第二十二回市民芸術文化祭。生徒達も自身の技術の向上と、色々なジャンルの皆さんとの共演を、毎年楽しみにしています。お客様に観ていただく作品に仕上げる為には、テクニクが秀でていても感動を与える事は出来ません。日々のレッスンから得るだけでは無く、舞台経験から得ることが多いものです。毎年春(今年は四月十三日(日))に教室の発表会を開催していますが、秋に同じ会場で舞台を踏むことに、幸せを感じています。桑名は、昔からの伝統、日本文化を多く継承している街でありながら、クラシックバレエと言う異文化も受け入れ、現在では世代を越え鑑賞するだけでなく、子供から大人まで目的はそれぞれですが、体幹を鍛え姿勢を正し、バレリーナのような体型を目指し心がける方々が多く、クラシックバレエに興味を持ち、色々な形で関わって下さっています。

このように、他の部門に携わる

方々、また自身に合う経験の無い事に於ても、文化祭プログラムから、それぞれの会場に足を運びながらお客様が興味を持って、新たな分野に進むきっかけを得る事も、少なくないと思います。私達は、その思いに繋がる舞台作りに励みたいと思います。

この一月に行われた新春懇親会に於て、今村和子会長のお話にもありました「誰もが楽しめる様に、文化を継承して行きましょう。」の言葉に、厳しさの中にも楽しみを持つる指導の大切さを感じました。これからも、多くの方々と世代・分野を越えた文化交流を深め、継承できる活動を続けていきたいと思っています。



吟剣詩舞道の祭典を終えて

芸能Ⅱ部門 藤田周作
(桑名市吟剣詩舞道連盟)

昨年十一月三日、市民会館小ホールにおいて、桑名市、桑名市教育委員会、桑名市文化協会主催の「吟剣詩舞道の祭典」を開催致しました。桑名市吟剣詩舞道連盟に加盟する二百五十余名の会員が日ごろの練習の成果を発表しました。

最初は少年、少女の吟詠で始まり、その堂々とした吟に、会場より大きな拍手を貰って満足そうでした。プログラムも順調に進み、客席も多くの方に来て頂きました。

午後の部は、吟道関心流の企画構成「富士山」を謳う題材が始まり、後方の幕には、富士山が写し出され、ナレーションと和歌、漢詩、吟詠、そして詩吟に合わせて舞う剣舞、扇を使い艶やかに舞う扇舞、二人で吟ずる連吟も行われました。それから「富士山」唱歌を全員で合唱しました。

続いて、岳風流桑名吟道会、九華教場の皆さんで「詩吟でつづる源平絵巻」の構成吟が行われました。源平の争乱は一一八〇年、後白河天皇の皇子、以仁王と源頼政の平家打倒の計画が始まりで、一一八五年、下関の壇ノ浦の海上で、源範頼、義経軍と、平氏の率

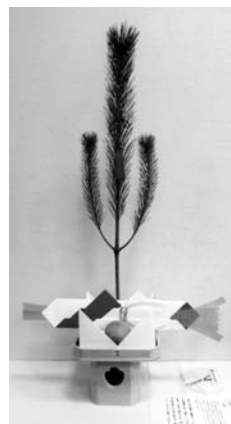
いる平宗盛を将とし、幼帝安徳天皇を擁した平家軍と合戦し平家は敗退。源平合戦は終結した。これを題材にした構成吟を発表しました。また、朧明流は伴吟入り詩舞、剣舞、藤貴流は伴吟、詩舞、岳風彰岳会は独吟、合吟と練習の成果を発表しました。

祭典終了後は、懇親会を開き、会員の親交を深め、連盟のさらなる発展を祈念いたしました。これからも地域の文化の発展に貢献できればと思います。



縁起の良い家内喜箸袋を折る

趣味教養部門 高村たまゑ
(装賀きもの学院桑名支部)



第二十二回桑名市民芸術文化祭に装賀きもの学院桑名支部より十二名で参加させていただきました。振袖又は、ふだん着の帯結び十七種の展示と五節句の飾り、体験は祝箸包みとお年玉包みでした。五節句の中でも、お正月が近いという事でお正月の床飾りに目を留めて下さる方が多かったように思います。

礼儀作法の中で学ぶこの床飾りはお米ですので、かびの心配が無く、私共は指導を受けたその年からこの様な飾りでお正月を迎えております。

真っ白な奉書を使い、こうだてを折ります。三方又はお盆にこうだてを組み、三枝の松(若松)を剣山に立てます。(剣山は銀紙で包んでおきます) お米を八合程盛り、赤色の細いくみ紐であげまき結びをしたものを三枝の松に結び付けます。

次に体験していただきました祝

箸ですが、やなぎ箸を奉書で包むものです。このやなぎを家内喜と字があてられ、縁起が良いとされています。鶴の箸置き(縁紅)で折った可愛い箸置きは、お子様やお孫さんにも大人気でお正月がいっそう楽しく、会話も進むのではないのでしょうか。ああそうです、お客様の分までと十人分程折って帰られる方もおられました。

今度は展示しました振袖とふだん着の帯結びですが、最近では、ふだんも着物で過ごすという方が、ちよつと少ない様ですが、かんたん角出しは人気の様で年齢を問わず好かれます。帯枕を使わないので夏は涼しく、冬もなんかすつきりと動きやすくあかぬけて粹。又、半幅帯で結ぶ「大人っぽい変わり結び」も人気でした。

「振袖美人の美しいしぐさ」振袖の帯結びは、この日のために又、成人式も近いと



いう事で、全員が心を込めて結びました。全部説明する事は出来ませんが、三十五年間続いている学院です。昔から人気のある帯結び八種と、毎年新しく考え出された、院長安田多賀子先生の本より選んだもの七種程でした。今年も又、新しい帯結びをお見せします。ご自分で帯結びを決め「振袖美人」になるために少しだけ「しぐさ」も知っておきましょう。有難うございました。

花あそび



茶華香道部門 上木 美翠
(石田流)

石田流は大正十一年(一九二二)に文人瓶花、文人華の流派として名古屋に誕生。その後「自然の姿を大切に」の心で投入花、創作花ステージいけ花(古典・現代)等を中心に幅広い分野で活動し、総合的いけばな流派として現代に至っています。桑名とは縁も深く、初代家元が「出稽古」に来ていた地の一つです。

コンパクトな生活空間に合った住まいの小品花として、花材を少なく、小さな器で短時間にいけられる「暮らしのいけばな」のリビ



ング花も現家元によって発表されました。毎年、桑名市民芸術文化祭、月釜華道展では各流派が特徴を生かした作品を展示し、多数の方々にご来場いただいています。

二十六年度か

らは芸術文化祭華道展の会場も、文化遺産である六華苑に移ります。私達の身近な伝統文化の一つであるいけばな、是非お出掛けいただき、季節の香りの中で草花の美しさに触れ、「花と遊んで」いただけたらと思います。



新春懇親会

演劇部門 石垣 正司
(劇団すがお)



新春懇親会が今年も例年どおり新春六華苑祭の初日の一月十八日に開催されました。

前文化協会会長の水谷正さんが長年に亘る公民館活動と文化協会会長として桑名市の文化の振興に寄与された活動に対して平成二十五年度桑名市文化功労者表彰を受けられたことの紹介があり、水谷前会長から挨拶の言葉をいただきました。

文化協会会員の三年連続受賞の快挙に参加者一同喜びを新たにしました。

そして乾杯のあとは懇親会に移りましたが、参加者の皆さんの健康啖ぶりに用意された料理はあつと

いう間になくなり、昨年に続くルナ フラメンカのみなさんの熱い踊りも宮永洋子箏曲・三絃教室さんと尺八の荒木副会長の静かな演奏も参加者の皆さんの懇親の声にかき消されるほどの賑わいぶりでした。

新春懇親会は、どちらかというと役員だけの活動になりがちな文化協会の活動を、本来の会員相互の交流と親睦を深めるために毎年開催されるようになったと聞いています。今後多くの会員の参加でこの会のさらなる発展が期待されていくように思いました。



桑名市文化功労者表彰を受けて

社会文化部門 水谷 正 (桑名国際文化交流委員会)



このたび伊藤徳宇桑名市長から栄えある文化功労者表彰を拝受いたしました。皆様のこれまでのご支援に深く感謝しておりますとともに、いささか恥ずかしいというか恐縮の気持ちを禁じ得ないというのが正直な気持ちです。

同時に表彰されました川添護さんは、ご専門の学識を生かして郷土のイヌナシやヒメタイコウチなどを守る自然保護の運動に誠実に努力を重ねておられる方であり、昨年表彰された加藤武夫前会長さんはご承知のとおり五〇年余にわたる演劇活動の実績で全国的にも著名な方です。

それに比べて私自身は、皆様のように独自の芸能や創作の分野で活動をしているわけでもなく、せいぜい居住地大福の夏祭りに篠笛を吹く程度の芸しか持ち合わせていません。

ただ、長い間の公民館関係の仕事を通じて、学習活動や文化活動を通じておられる多くの市民の方々と接することができ、また桑名国際文化交流委員会のメンバーに入れていただいていたからは、国内外で文化活動をしている皆様とお付き合いがはじまり、さらに桑名市文化協会の役員にさせていただいてからは、関係団体や会員の皆様の仲間として、近隣の文化団体の皆様とともに運営に努力をしてきました。

ですから強いて言えば、私は桑名地方の文化活動を盛んにするために側面からお手伝いやお世話をするという、いわば間接的な応援者としての立場が長かったというに過ぎないのではないかと思います。

こうした立場から見ると、名古屋と四日市の中間という不利な条件に囚われ、文化愛好者の高齢化など文化活動に不利な状況にも十分に対処できなかったという悔悟の念も持ち続けています。

いま全国的に文化活動にとって逆風の時代になってきたという人もいる中でも、私自身は高齢者意識を克服し、一市民として楽しく活動が続けたいと思っています。

平成二十六年月度釜・華道展日程表

華道展 土曜日・午後一時～五時 日曜日・午前十時～午後三時半
月 釜 日曜日・午前十時～午後三時半
ところ 六華苑〔月釜〕離れ屋 〔華道展〕番蔵棟
前売呈茶券 八百円（入苑料込） 当日券 六百元（入苑料別）

四月十九日（土）は県民の日を記念して、入苑料が無料となり、呈茶券は前売・当日共に六百元です。

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
平成二十六年 四月十九日（土） 二十日（日）	（十九日のみ） 煎茶松風流	華道家元池坊
五月二十四日（土） 五月二十五日（日）	（二十五日のみ） 裏千家	石田流
六月十四日（土） 六月十五日（日）	（十五日のみ） 表千家流	小原流
九月二十日（土） 九月二十一日（日）	（二十一日のみ） 遠州流	竹真流
十月十九日（日）	裏千家	休会
平成二十七年 一月十八日（日）	表千家流	休会
二月十四日（土） 二月十五日（日）	（十五日のみ） 煎茶松風流	MOA山月光輪花
三月十四日（土） 三月十五日（日）	（十五日のみ） 遠州流	草月流

桑名市文化協会育成補助金 募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して補助金を交付します。つきましては平成26年度の育成補助金募集案内をいたします。

◎補助対象団体等
文化協会の個人及び団体。ただし、平成26年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で平成24年、25年に補助を受けていない会員。

◎補助金の額
事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

◎応募の方法
文化協会事務局（教育委員会文化課内）で申請書類を受け取り、同事務局へ申請する。（文化協会のホームページからもダウンロードできます）

◎応募受付期間
平成26年3月3日（月）～
4月4日（金）

（平成26年4月1日～平成27年3月31日までの実施事業に限る）

◎申請の制限
平成24年度・25年度に補助金助成を受けた団体・会員は交付申請できない。

◎お問い合わせ
桑名市文化協会事務局
（桑名市教育委員会 文化課内）
TEL 0594-24-1361



文協文芸

現代詩

現代詩やまぶき

眠れぬ夜

文学部門 岡本 妙子

それは
真夜中のひとりごと

かすれた喉をふるわせて
「熱い季節に疲れました」と
ため息を漏らす

真夏の太陽に負けて
言葉を失い
言い足りなかった無念さに
もがいて・・・

静まった夜の奥で
取り戻すことの出来ない時間を
抱きかかえようとしている

子供の頃
跳び箱の前で
助走すら出来なかった足を
さすりながら

言い訳の言葉をさがす

懐かしさを覗くと
廃屋の奥につるした
錆びた鍬が

眠っていたいろいろを
耕しにやってくるようで
怖い

いがぐり

文学部門 堀川 孝子

大きな栗の木の下で
輪になって踊っていた子供たち
結ばれた手と手

ほほえむことでしか
自分を守れなかった少女は
誰にも看取られずに死にました

子供たちは
輪を作ることが出来ません
風が木の葉を散らしました
雲が降りてきて泣きました

親が親であることを投げ出した時
ひよわな子供は闇の中

狼になった男と女

深い爪痕
手足がすくみ

おびえた声は
隣の人には聞こえない

いがぐりが落ちた地上で

立ちつくした少女は
ジャン・バルジャンを

待っていただろうに
私は遠い所の出来事のように

気づけなかった
数年経った今も

いがぐりの刺はささったまま
私の中でうずくのです

ゆめ・まぼろし

文学部門 安田 治三

人の一生は長いようであたたかた
凡そ宇宙時間一秒に等しいらしい

今まで何をしてきたんだろう
まるで考えなしでここまで来た

残りをどう生きたらいいのだろう
ずうっと目の前だけを
見ていただけだった

やりたい事をやれば
欲しい物が手に入れば
それだけで充分満足の気がした

夢ってなんですか
夢ってなんだったんですか

他人や自分に問いかけても
見知らぬ所を歩いていても
長い道程を旅していても

朝には陽が昇り
夜には蒼い空に月があり

ホモサピエンスもクレオパトラも
楊貴妃も千利休も

変わらず同じ月を見ていたんです

ニール・アームストロングは
月に立ったけれど
一体、僕には何ができたのか

一体全体僕には何ができるのか

ピョートル一世は

サンクトペテルブルグを手に入れ
ロシアはバルト海めざして
不凍港を手に入れた

伊能忠敬は日本全国を測量して
精度の高い地図を完成させた

たった一秒間に何ができるだろう
何もできない一秒間が過ぎるだけ
何ができないければ自己満足を得
られないのか
それでも地球は回っている

宇宙は速いスピードで
膨らんでいるのだ

庭先で夜空の星を見ていても
星はたった今も遠ざかっている

白い息を吐きながら
何億年かの遠い遠い過去を
じっと、じっと、ただじっと

ゆめ、まぼろしを見ています
ゆめ、まぼろしの中にいる

現代詩を一緒に創作しませんか

仲間に入って楽しくやってみよう

現代詩やまぶき

川柳

くわな川柳会

●会員 近詠

梶 泰栄

合格と分かる弾んだ声が来る
いろいろな男を知ったイヤリング

伊藤 正則

ちよつぴりの利息に税は抜け目ない
久し振り背伸びしてくる同期会

川瀬 秋廣

年寄りと思っていない私です
聞く耳を持つと私は胃にもたれ

清水 健吾

盛大に祝福受けてもう他人
古民家を買うとねずみが住んでいた

水谷 真

悪法が無力野党で通過する
血税を飲んで東電生き延びる

真田 虎山

書初めの夢は太字の古希の筆
歳末はチラシの山が腰を押す

木原 広志

薬貼る時だけ妻の肌に触れ
まだ使う顔化粧にも念を入れ

●多度グループ

川畑 義之

食通の講釈膳が出て続く
整形の顔で半生泳ぎきり

水谷 陽子

若作り小皺で歳を見破られ
老い防ぐために晩年金をかけ

草薨 尚子

募金箱小さく折って札を入れ
味付けも夫に合わせ平和です

伊藤 章子

道ばたへ躰けの悪い犬が来る
和解して楽しい酒を注ぎこぼす



無料の川柳入門講座

木原広志

名古屋の鶴舞中央図書館で会議
室が無料で使用できると聞いた。

会場が無料ならば図書館を利用
する人たちへ「川柳入門」を呼びか
けることを思いついた。

以前愛知大学で会議室を無料で
お借りして開いたところ四十名の
人が参加された。

無料がいかに魅力的かを知った。

関係する「NPO生涯学習」へ打
診したところ、こころよく同意が
得られ、加えて名古屋市の生涯学

習センター十六か所にも受講申込
書の手配をしていた。いた。

現在どこの川柳会も病氣と高齢
により会員が減っているのが現状
である。

座して待っていても、行動を起
こさない限り仲間が増えない。

図書館を利用する人は多い。し
かし、川柳の講座へどれだけの人
が興味をもつかが心配であった。

NPO生涯学習は中日新聞にも
講座の掲載をしていた。

その結果、定員二十五名へ三十
五名の申込みがあり事務局も驚い
た。幸い会議室は収容四十名。当日

配布のテキストの追加をコピーし
て私たちはその日を待った。

そしてその日参加者は定刻に会
議室を埋めた。

当日の助っ人五名と講座の進め
方を話し合った結果、〃即実作〃
でいくことに決定。

前段の一時間で〃俳句との違い〃
をお話しし、後半は助っ人が点在
して、課題の「酒」と「花」へ取り組
んだ。その結果、

マンシヨンの善意の花に癒される

ろう梅の香り夫が連れ出され

若い頃おだてられたが花も枯れ

一方「酒」では

恐妻家もう一本と言いきり
飲むほどに別れた彼を思い出す

宴がはね下戸の幹事は運転手
川柳はうなずかせる文芸である、
とは評論家復本一郎さんの言葉。

参加者は助っ人のアドバイスを
うけて難なく作句した。

当日の作品は色紙へ染筆して各
自お渡しすることにしたが、自作
を色紙へ揮毫すると目をうたがう
ことだろう。

私の若い頃、書道をやってなく
ても諸先輩は云われるままに筆を
執ったものである。

私自身、先輩の

「今からでは手おくれだ自分の
字を作れ」に従い、我流で揮毫して
いるが正解だったと思う。

講座はあと二回。私は折角つか
んだ仲間をはなしたくない。

事務局にお願いして閉講後も会
議室をお借りして三十五の顔と対
峙し、川柳を語り、色紙へ画を描
き、句を書く、そんなグループに育
てたいと思っている。

現在川柳はもちろん、短歌、俳句
も染筆にさいし、言い訳ばかりし
て筆を握らない人が多い。

仮称〃川柳つるまい〃は染筆のでき
る俳句集団にしたいと思っている。

短歌

金雀枝短歌社

● 会員 近詠

賀状一枚いともたやすき交はりに
心かよはせ熱く生きこし

三田香代子

穂芒のしろがねゆらし吹く風に相
思のあはき記憶ゆだねる

岩花キミ代

台風の去りたる朝の空高くガラス
ペンのやうな飛行機がゆく

高橋フクミ

せつかくの命と朝日に励まされぎ
くしやくとする首を回せり

西羽加代子

身をあずけ深く眠れるおさなごの
やわき前髪頬に触れくる

水谷 郁子

母といく並木の道の遠ければ海か
らの文をさがしつ戻る

斎田 眞希

あの頃は恋とは気付かず純情で写
真を見つつ過去愛おしむ

上田 順子

マロニエの色付く街を二階建ての
まっ赤なバスに揺られてをりぬ

三林 牧子

金木犀の金の小花の香り立つ隣に
赤子の泣き声きこゆ

岡本 節子

畑に咲く百日草の花の色秋氣を浴
びていよよ冴えくる

窪田 靖子

ひがん花咲く畦道を這ふやうに藁
燃すけむり北へ流るる

近藤 光子

信号を待つときの間を見上ぐれば
暗む夕空に眉月かかる

高橋 典子

少しづつ楽しくなってきたと言ひ
Tシャツ叩き干しくる夫

伊藤美咲子

ピラミッド五段の頂点孫は立つ青
空を背に両手広げて

伊藤 紗代

望月は中空にあり皓々と今宵草む
ら眠りにつかず

石川 房子

戦中の同窓の友ら傘寿すぎ亡夫の
話題に偲び夜の更く

石川富士子

里芋がおいしいと言う曾孫と月と
私の御馳走になる

伊藤さくえ

烏四つ何かくわえる道のへに猫の
しおしお立ち去りて行く

大石 朝子

コスモスはうろこ雲にて育てられ
光とともに空に手を振る

大平 千歳

一本の梢に陣取る百舌ありて空を
切り裂き呼ぶ叫び声

大森めぐみ

刈り入れの近き稲田に見えかくれ
媼はひたすら稗を抜きいる

海老原秀世

柿の実の色づく路地に踏み入りて
リハビリに行く近道と知る

小林三江水

朝空に台風一過の置き土産くはな
の町を跨ぐ大虹

加藤よしみ

来む春もはな大根をさかさんとご
ま粒ほどの命を播けり

黒田美代子

赤のまま水引き露くさ糸すすきか
げ細やかに纏はりてくる

上原巳喜子

幼子の顔より大き薩摩芋ごろごろ
ごろり秋空たかし

後藤 明美

過去ばかり見ているメガネをはず
したら押入れ空間ふわつと増えた

佐竹貴代子

あら草に野菊の淡き紫が映えてこ
の道行き帰りくる

内藤みち子

束ねぬし紐を解けば八方にしだる
る萩の白き花こぼる

松岡 綾子

柳の葉のやうなるかまきり後足ふ
んばつたままけふも動かず

土井寿美子

無花果の一枝倒しカミキリの太き
幼虫穴に顔出す

田中 流石

山車を引く幼に付き添う母親は我
にさやかな笑みをくれたり

中村 里子

嵐のなか始発電車の音を聞き猛烈
に降る雨やむを待つ

南部 信子

夕顔は今宵の闇に白く咲く明日咲
く蕾あまた待ちつつ

前田 誠子

早朝の蜻蛉群れ飛ぶ公園に十人輪
になり太極拳する

水野千枝子

剪定の時季ともなりぬ恙なし世捨
ての出番密かに思う

丹羽 孝之

オリンピックの開催地決める暁に
虹のかかるをラジオが伝う

西塚 郁代

しらしらと秋長けてゆき寝たきり
の母に涼しく一日が暮るる

水谷貴美子

老いふたり待ちたる秋の陽の匂ひ
抱きつつ蒲団を引きずりて干す

月井 和恵

雑草にまぎれて咲けるつゆくさの
すずしき露に老眼すすぐ

千種てい子



「楓・山城顕彰短歌」

■小・中学生作品

試合出て待つてる間のきん張は耳の近くに心臓がある

六年 加世堂 遥
富士山にでつかい扇風機とりつけて吹き飛ばしたい猛暑の夏を

六年 山本 純大
おじいちゃんわたしに会うとよろこぶのにぎったその手とてもあたたか

六年 後藤 希実
分かれ道相合傘の友達に傘半分こできたらいいな

六年 岡村かがり
そのすき間パズルのように埋まってくクラスのみんなもうすぐひとつ

六年 山口 実紗
チャンスだぞ自分の心にいきかすやったあうてたホームラン！

六年 天野 響也
おにちゃんソファアの上でぐったりとまるでくまさん毎日ねてる

六年 深田 董
たのしみはこわれた機械分解しこわれた場所をさがしているとき

六年 伊藤 陽裕
音楽合唱私のひいたばんそうとみんなの歌声舞台にひびく

六年 上野 英恵

えんがわでセミの鳴き声聞きながら祖母といっしょにすいかの種とばし
六年 水谷 優季
ケンカして見上げる空にふくれゆく積乱雲は私の心だ

中二 橋見 拓人
ありがとうその一言がうれしくてそつと寄り添う介護体験

中二 金森 彩音
空の下あいつと歩くこの道はいつもと違う景色が見える

中二 佐藤 虹帆
エコバックいつも片手に持ち歩き白くまさんをひそかに救う

中二 水野 海斗
ポスト前小さい期待と夢かけた懸賞葉書を静かに入れる

中二 柴田 滉介
家の庭でつくったきゅうりのぶつぶとはとても痛い新鮮な証し

中二 荒谷 優登
図書室に一步入れれば包まれる古びた紙とインクのおい

中二 小林 果鈴
亡き祖父と夜までかけた逆上がり一人で出来た夕日がにじむ

中二 山川 晃史
みいーちゃんと呼ばれてすぐにかけた大好きだった祖母の膝の上

中二 山口 稔理
さりげなく呼び捨てされた帰り道いつもと違ってちよつと嬉しい

中二 森本 友梨

栗南瓜・東京オリンピック

個人会員 松井 久雄

〈ああ雌花〉

★わが植えし日本の南瓜蔓のぼし日照りの庭に葉を拡げたり

★ああ雌花今朝は二つと微笑みて恋の仲だち日課となりぬ

★わが庭の紅きもみじに蟬の声涼しげに聞く晴れわたる朝

★ころころと摘みし南瓜を抱えゆく栗南瓜九個少し得意げ

★妻のいう野菜作りのほめ言葉歌よりうまいというではないか

〈東京オリンピック〉

★ロゲ会長TOKYO2020のボード掲げる画面幾度も見る

★招致することばの響き佐藤真海IOCを包みしならん

★骨肉腫でなくしし脚の痛み越えし佐藤真海さん被災地の女性

★鬼に金棒小野に鉄棒の小野喬東京五輪前回の旗手

〈題詠〉

光

大空の透ける緑光オーロラに魅せられていし若き日の我

車

老歌友手押し車で集いくる守り育てんわれらが歌会

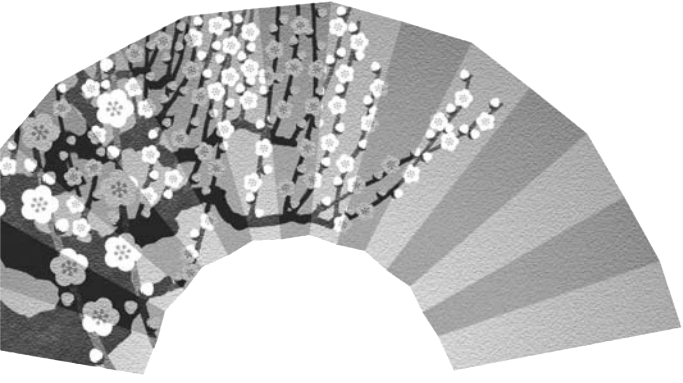
知る

黄の花樹の名は山茱萸さんしゅゆとわれは知る散り急ぐなよハルコガネバナ

指 キャンバスに絵筆走らす親指と四本の指の構えはよろし

少年 少年を傷つけし日のある教職の日々かえりみる今

蕎麦 伊勢桑名「歌行燈」の蕎麦鮎をゆつたりと食む暑さ忘れて



桑名地名あれこれ(10)

城南(じょうなん)

社会文化部門
(個人会員)

大河内 浩

昨年は伊勢神宮の御遷宮の話題に沸いた一年でしたが、この二十一年に一度の遷宮を受けて、古材払い下げによる鳥居の建て替えが慣例となっているのは桑名市内でも船馬町の七里渡口と赤須賀神明社、そして安永の城南神社の三カ所だけです。

城南神社はもとと安永の鎮守神明社に、明治四十一年に東野を除く旧城南村の各神社を合祀して城南神社と改称され、その後昭和三十一年にもととの各字へ分祀されましたが、現在も城南地区の総鎮守として崇められています。

城南村は、明治二十二年の近代市町村制施行時に、安永をはじめ、東野・赤須賀新田(現在の地蔵)・小貝須・大貝須新田・福地新田・萱町新田(城南萱町)・福江新田(南福江)・小泉新田・和泉の十カ村が合併して誕生し、江戸時代からこのあたりが、中南あるいは城南と称されていたことに由来します。獵師町赤須賀が城東と呼ばれたのに対し、桑名城の南方の地ということとで俗称されてきたことが町村分合取調書に見られます。



皇大神宮鳥居御下賜の標石が立つ城南神社参道

大貝須・福地のもともとの海岸線から南は、干潮時には陸地となる大きな洲であったらしいですが、安政四年(一八五七)の大津波で流失し、その後度々の埋立て計画や導水堤の築造の後、大東亜戦争での食糧不足で干拓地の必要性に迫られて昭和二十一年に本格的に事業に着手、広さ二〇〇haの広大な干拓地となりました。町村合併促進法に基づく合併でも、城南村は城南干拓の整備問題が優先して合併時期が遅れ、昭和三十一年九月に桑名市と合併となっています。

平成二十五年度

新入会員の紹介

(敬称略)(3月1日現在)

○ Duo Equinox

代表 山口美夕鶴(音楽・ヴァイオリン、ギター)

○ ハーモニカユニット MCMITT

代表 松岡 啓子(音楽・ハーモニカ)

○ くわな孔版画研究会

代表 早川 里美(美術・孔版画)

○ 家田 清登

個人会員(美術・洋画)

○ アート カルテット

代表 中村 幸子(美術・油絵、水彩、パステル、ペン画等)

○ 藤間流 啓萃会

代表 藤間 啓萃(芸能I・日本舞踊)

編集後記

冬の寒さもようやく峠を越し、いよいよ「春」を迎えワクワクした気持ちになる季節となりました。

今回は、文芸特集に因んでそのような気分をうたった名歌を挙げます。

石ばしる垂水の上のさ藤の

萌え出づる春になりにけるかも

袖ひちてむすびし水のこほれるを

春立つけふの風やとくらむ

紀 貫之(古今和歌集)

谷川のうち出づる波も声立てつ

驚さそへ春の山風

藤原家隆(新古今和歌集)

第22回総会のご案内

日時 平成26年5月11日(日)

午前10時から

(受付は午前9時30分から)

会場 桑名市大山田コミュニティ

プラザ 中会議室

*各部門から代議員の選出をしていただきます。

広報担当副会長

委員 文学部門

美術部門

音楽部門

芸能I部門

芸能II部門

芸能III部門

演劇部門

社会文化部門

茶華香道部門

趣味教養部門

丹羽 宗俊

高橋 フクミ

末廣 英昭

菅原 真治

村瀬 昌子

藤田 周作

岡本 早苗

早川 幸成

大河内 浩

三浦 幸子

加藤 誠

さて私たちかかるた協会の本部組織は、この四月から一般社団法人として再スタートを切ります。活動の主体は、スポーツとしての競技かるた普及が中心になりますが、あわせて、より多くの人々が伝統文化である小倉百人一首をはじめとした和歌に親しむ場づくりを行うことも重要な責務であると、心をあらたにしているところです。

自らの決意表明と皆様のご支援、ご協力をお願いして、編集後記にかえさせていただきます。

(加藤 誠)